

特報 いま天文月報が変わる!

天文月報編集部

日本天文学会の和文誌である天文月報は、他の学会誌やアマチュア向けの天文雑誌と比べてお世辞にも読み易いとはいえませんでした。現編集部は、その原因の一つに装丁と紙面構成があると考え今回大幅に改訂することを決意しました。

【1】装丁はこう変わる

入れ物を変え、読者として見た場合決して読み易くはなかった「天文月報」のイメージチェンジを図ろうというのが、今回の装丁改善計画の最大の動機です。

- ① 表紙のイメージを一新します。表紙は雑誌の顔であり、最も力を入れるべき箇所ではありますが、これまでの天文月報は内容を知るためには目次を見なければならず、せっかく表紙に人目を引く絵が載っていても、どの話題と関連するのかが分かりにくいという問題がありました。そこで目次の抜粋を表紙に載せます。また年号が目だたないため、別の年の同月号を見てしまうという間違いがよく起こることを反省し、年号の数字を大きくします。
- ② 本文の活字サイズを大きくし、余白をゆったりと取り、気軽に読める印象を重視した紙面割としました。文字も活版から写真植字に移行することで可能となった多彩な書体を駆使し、読み易さを考えた紙

面設計にしました。

- ③ 印刷コストを再検討し、全面2色刷に移行します。これによってグラフ・解説図などの図が見やすく、見出しにバリエーションがつけられます。

【2】構成はこう変わる

- ① これまで、分散していた広告を表紙裏と目次後にまとめます。お知らせ記事についても、月報だよりとして一括します。
- ② 各記事の位置づけをはっきりさせるために、内容の分類を再検討し、分類名に愛称をつけ、目次・記事表題に明記することになります。具体的には、
Skylight, Eureka, 天球儀, Astro News, Astro Express, 雑報, 新刊紹介, 月報だより, 星空市場, シリーズ
です。主な内容は下に示します。

SKYLIGHT

最近注目されている天文のテーマについて、一般読者を対象にわかりやすくレビューしてもらおうものです。このようなものは、これまで特集などの形で掲載してきましたが、今後は毎月様々なテーマでお届けしたいと思います。

天球儀

専門的研究の紹介ではなく、天文学周辺の様々な話題を提供する気楽な読み物です。

EUREKA

Eureka(エureka)とは、アルキメデスがかの有名なアルキメデスの原理を発見したとき、風呂の中で叫んだと言われている言葉。ギリシャ語で「わかった!」という意味です。ここでは、プロ、アマ問わず、最近の研究で「わかった」ことを、解説していただきます。特に風呂の中で原稿を書く必要はありませんが、一般読者にも「わかる」内容と言葉使いで書いて頂きたいと思っています。

ASTRO NEWS

最新の天文ニュースを紹介しま
す。通り一遍の記事ではなく発
見方法や天文学的意義などをわ
かりやすく解説していただく予
定です。

ASTRO EXPRESS

すでに先行して始まっておりま
すが、これは学術雑誌に掲載さ
れた研究論文の速報です。これ
までの天文学最前線をバージョ
ンアップしたものです。

シリーズ

従来の「シリーズ」を受け継い
だものです。来年のテーマは、
「天文学の流れを作った天体た
ち」。題して「天体偉人伝」。

月報だより

人事公募・結果、研究会予定、奨学金・助成金等の記事はすべてこのコーナーにまとめ
られます。原稿の締切は毎月20日で2カ月後の20日に掲載号が出ます。

星空市場

天文学会会員同士の交流のために天文月報の誌面の一部を解放します。このコーナーは、天文学会員みなさ
んの意見や情報の交換を行う場として、「星空市場」と名付けました。アマチュアからプロレベルまで幅広
く天文学に関する質問や相談とそれに対する回答、天文学上の議論から天文学会への要求など様々なテーマ
についての意見交換、必要なもの・不要になったものの交換・譲渡希望（望遠鏡、パソコン、学術雑誌など
なんでも）の紹介などを取り上げたいと思っています。今までの天文月報にない肩肘の張らないコーナー、
それでいてアマチュア向け天文雑誌の読者コーナーとはひと味違った日本天文学会機関誌としての特徴を持
ったコーナーにして行きたいと考えています。

大募集

そこで、さっそく「星空市場」への“出品”を募集いたします。原稿の形式は特に問いませんが、上に示した
ような内容で「質問・相談」「意見」「ゆずります」「ください」の区別を明記して日本天文学会までお寄
せください。“出品”者の連絡先をお忘れなく！

☆ もう一度天文月報の意義を考えてみて下さい ☆

天文学会が和文雑誌を出す意義はどこにあるのでしょうか？天文関係情報雑誌として価値があるという人もい
るでしょうが、やはり解説記事が雑誌の価値を決めるものではないでしょうか。研究者であれば英文で書かれた
論文で十分という意見もあるでしょう。しかし少なくとも日本在住の日本人研究者は、論文を書くための議論も、
学会発表もすべて日本語で行っているのです。研究を日本語でわかりやすく、かつある程度詳しく知ることので
きる場所は現在天文月報をおいて外にはないのです。そして、研究者であっても自分が直接関わっている分野
以外は、アマチュアとさほど変わらない程度にしかわかっていないことは多いのです。そう考えると、「分野外
の人間にもちゃんとその面白味がわかる」ということは、アマチュアとプロの共通の要求と考えるべきではない
でしょうか。「そんなことは分かりきっている」と言われそうですが、果して、現在の原稿がその観点から書か
れているのだろうかと思えますと、本当に分かりきったことなのか疑問に思える場合もあります。プロが読んで
もアマが読んで面白く、価値のある雑誌にすることは可能なはずで、そうしなければプロの研究者が自分の
研究時間をさいて執筆したり、また編集したりする意義はなくなってしまわないでしょうか。